



コミュニティ・スクール

三鷹の森学園 CS だより

24号

～地域は学校を支え、学校は地域を結ぶ～

平成二十七年 三月
学園長 柳瀬 泰
会長 石井 章夫
編集 広報部

CS（コミュニティ・スクール）と小・中一貫教育

平成 16 年 9 月から、新しい公立学校運営の仕組みとしてコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が導入されました。コミュニティ・スクールは保護者や地域の皆さんの声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となって、より良い学校を作り上げていくことを目指すものです。三鷹市では平成 18 年度から平成 21 年度までにコミュニティ・スクールの基盤とした 9 年間の連続した学びを実現する「小・中一貫教育校」を開園し、中学校区単位に 7 学園あります。三鷹の森学園は第三中学校、第五小学校、高山小学校からなり、平成 21 年度より開設され、6 年目を迎えました。

副会長 吉野 恵蔵

三鷹の森学園が開園し 6 年、私が三鷹の森学園に関わり 5 年を終えようとしています。

当初、訳がわからなかった多くのこともだいたい理解できるようになった気がします。

長女が高山小学校を卒業する節目の年になってみて、小・中一貫教育のよさ、表題の「地域は学校を支え、学校は地域を結ぶ」の意味に改めて気が付かされたように思います。

CSガイドに三本の木と言う表現があります。三本の木で学ぶ子供たちにどうかみなさんの力を少しずつ注いでください。きっと実りある地域になっていくことに違いありません。三鷹の森学園に今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

まさに学園の
縁の下の力持ち

小・中一貫コーディネーターの先生方の紹介

三鷹の森学園、小・中一貫コーディネーターの先生方を紹介します。
今回は松川先生にお話を伺いました。

日頃はその活動を目にすることはありませんが、仕事内容は「三校の情報交換・連絡・調整・交流行事等の進捗状況の把握・会議のレジュメの作成等」まさに縁の下の力持ち的存在です。

週に 1 回、定期的に「コーディネーター会議」を開いてコミュニケーションを図り、3 校の交流がスムーズに行くように心がけているそうです。高山小の職員室の片隅で行われた会議にお邪魔しましたが、とても和やかな雰囲気でした。

また、年度初めには、新しく三鷹の森学園にいらした「コミュニティ・スクール」初体験の先生方に学園の説明・紹介を行っていますが、その中で印象的な言葉がありました。

三鷹の森学園の学園歌には、3 校を象徴するかのよう 3 種類の鳥の名前が出てきます、「カワセミ」「キジバト」「ハヤブサ」です。学園の先生方の考え方に、俯瞰して子どもたちの 9 年間を見守っている「鳥の目線」を感じているそうです。

今後の課題は、システムの整理、インフォメーション、そしてスピリッツ（今まで築いてきたこと）の継承だそうです。三鷹の森学園のHPなどで情報の発信にも力を入れていきたいとおっしゃっていました。HPには先生方の活動報告も掲載されています。ぜひご覧ください。



松川先生（高山小）



会議風景（高山小）

今年度は主に桜井先生が担当しています。年間予定を出し、常に動けるようにしています。



服田先生 桜井先生（三中）

三校の児童・生徒・先生方がうまくまわるように常に考えています。



馬渡先生（五小）

赴任したばかりですが、三鷹市は小中の学区割りがうまく出来ているので動きやすいです。

各校の経営計画は「学園教育計画」の方針を踏まえ特色のある学校経営を行っています。

平成27年度 学園教育計画

地域とともに生き、豊かな学力と人間力・社会力を有し、国際社会に貢献できる児童・生徒を育成する。

第五小学校
経営計画

小・中一貫
カリキュラム

第三中学校
経営計画

小・中一貫
カリキュラム

高山小学校
経営計画

学力向上

コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校のねらい、並びに学園の教育目標を達成するための基本方針

小・中一貫カリキュラムに基づいた指導法の改善と小6から中1の接続期の指導の工夫・改善を行う。国語の指導を基盤として言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。「反復学習」「家庭学習」の習慣化、放課後や休業中の「補充学習」を拡充して、各学年の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

健全育成

「学園生活指導計画」に基づいた一貫した指導方針のもとに、規範意識を育成する。人や社会とかわる活動や社会貢献活動を通して自己有用感を高め、ともに生きる力の育成を進める。

重要!

- ◆「三鷹学びのスタンダード」の啓発。
- ◆土曜を活用するなど、授業時数を増やす。
- ◆インターネット依存の未然防止や防災教育に計画的に取り組む。
- ◆三鷹市いじめ防止対策推進条例等に基づき、いじめ防止の徹底を図る。

学校運営協議会報告

12月11日 第8回CS委員会

★主な議題
五小学校運営協議会
・学校経営計画に基づく経過報告

1月16日 第9回CS委員会

★主な議題
学校評価の報告・承認
27年度の学園の教育計画について提案

2月14日 第10回CS委員会

★主な議題
五小学校運営協議会

3月12日 第11回CS委員会

★主な議題
27年度 学園教育計画の承認
27年度 学校の教育課程の承認

各学校の様子や「CSだより」のイラストカラー版を学園HPに随時掲載していきます。どうぞご覧ください。

学園：<http://www.mitaka-schools.jp/mitakanomori/index.html>

五小：<http://www.mitaka-schools.jp/gosho-es/index.html>

高山小：<http://www.mitaka-schools.jp/takayama-es/index.html>

三中：<http://www.mitaka-schools.jp/sanchu-jhs/index.html>

2014 三鷹の森 熟議

今年度三鷹の森学園コミュニティ・スクールでは二つの議題で熟議をしました。

一つは前回のCSだより23号で掲載した「ケータイ・スマホの使用契約書」で結果をお知らせしました。

もう一つは「三鷹の森学園の中期目標について」でした。子供たちを取りまく環境は刻々と変化しています。地域として、学校として、何より三鷹の森として、子供たちのために伝えていくべきことを熟議しました。来年度も引き続き熟議を重ね、報告を掲載します。

9月19日 第5回CS委員会

★主な議題
第1回学校評価の報告・承認
熟議
「三鷹の森学園の中期目標について」

学園の予定

3月18～25日	三校あいさつ運動
3月20日	三中卒業式
3月25日	五小・高山小卒業式
4月6日	五小・高山小入学式
4月7日	三中入学式

CS委員会各部 1年間の活動と頑張りを振り返って一言...



花いっぱい運動



MISHOP



花いっぱい運動

地域部は今年度最初の部会で、「私たちにできること」をみんなで考えました。そして地域部の目標にしよう確認したことは

- まずは今やっている子供たちのための活動を、精一杯楽しくやる!
- 学校からの要望にいつでも応えられるように、部会で情報交換をしよう!
- 地域のいろいろな人や団体を積極的につなげていこう!
- 学校に地域の情報を伝えよう!

の4つでした。1年を通してやりきれたかといえば反省も多々ありますが...足りない所は補い合い、助け合って進んだ一年間でした。ご協力頂いた地域の皆さま、先生方ありがとうございました。

★～1年間の主な活動～★

- ◎花いっぱい運動(年4回)の実施
- ◎はなかいどうまつり参加団体の調整
- ◎MISHOPへ中学生ボランティアと共に参加
- ◎ソフトバレーボール練習会の実施など



今年度は三中の「職業人の話」をはじめとした講師依頼、また職場体験の新たな受け先の開拓などを中心に活動してまいりました。それらの活動のたびに地域の方々、そして企業の皆さまに多くのご支援とご協力をいただき、改めて地域の力を感じた1年でした。今後も地域力を積極的に活用すると共に、学校とさらなる連携を図りながら学園の子供たちのために活動をしていきたいと思っております。

★～1年間の主な活動～★

- ◎職業人の話—講師手配
- ◎職場体験先開拓 など



講師の方々



CSだより評価号



保護者アンケート

評価部では今年度も「保護者アンケート」を実施しました。多くの皆さまにご協力を頂きありがとうございました。

今年度の質問内容は、各学校から出されている学校経営計画の、重点目標の内容と同じにしましたので、学校が重要と考えていることを保護者も同じように重要だと感じているか、そしてその目標がどれくらい達成できていると、保護者が感じているかがわかる結果となりました。詳細は「評価号」をご覧ください。1年間ありがとうございました。

★～1年間の主な活動～★

- ◎評価アンケート実施
- ◎CSだより評価号作成 など



今年度のスローガンは「実践する広報活動」でした。昨年度の足がかりを生かして、行動をおこしていくことを意識して活動してきました。牟礼・井の頭コミセンの広報紙に三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会紹介の記事を載せて頂きました。HPではカラーイラスト版のCSだよりとこれまでのバックナンバーをアップしました。昨年に引き続き配布ボランティアさんにもご協力いただきました。広報活動をする上で本当にたくさんの地域の方、先生方、保護者の方にご協力いただきましたこと大変感謝しています。来年度も緑のTシャツを見かけましたら、ご協力をお願いします。

★～1年間の主な活動～★

- ◎CSだより22号、23号、24号編集、発行
- ◎コミセン広報紙向け記事作成
- ◎HP用イラスト版CSだよりバックナンバー作成



広報部打合せ



CSだより22号・23号



漢検ボランティアさん

先日、26年度最後の漢字検定を無事終えることができ、ほっとしています。今年度も三鷹の森学園の三校で沢山の児童生徒が漢検・英検を受検しました。子供たちが普段通り慣れている学校で受検できるということは大変なメリットですが、そのためには、保護者の方のサポートが必要です。毎回、試験監督等の人員が足りるのかどうか不安に思いながら、お手伝い同意書を配るのですが、「お手伝いできます」とのお返事が返ってくると本当に嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいになります。保護者の皆様も何かと忙しくて大変かと思いますが、毎年ステップアップを目指して努力している子供たちのために、引き続きサポートご協力お願いいたします。

★～1年間の主な活動～★

- ◎漢字検定・英語検定実施 年3回(学期各1回)



理科の授業で大切にしてきたことを少し。

4年生の「物の温度と体積」の授業の一コマです。

丸底フラスコの口に栓をして、お湯につけて温めると、栓が飛び出す実験をします。

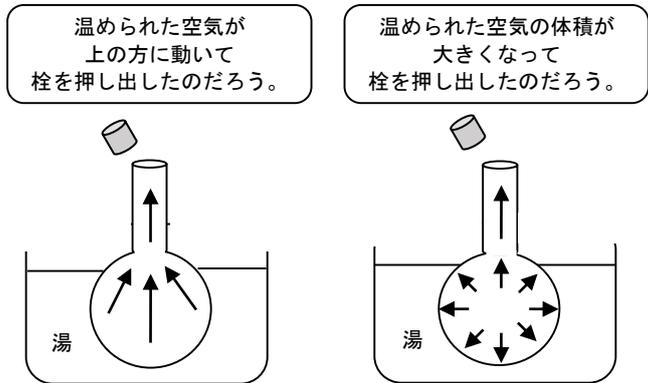
「あれ？おかしいな？丸底フラスコの中では、何が起こったのだろう？」

「丸底フラスコの中の空気がどのように変わったから栓が飛び出したのだろう？」

子供たちは、これまでの経験や知識から、自然の事物・現象について自分なりに認識しています。誰も栓に触れていないのに飛び出すという現象に、これまでの認識とのずれを感じ、不思議に思います。こうした認知的葛藤を喚起することを大切にしてきました。そこから、子供が問題を見だし、調べたい、確かめたいという意欲が高まるからです。

また、子供一人一人がもっている考えを明確にすることを大切にしてきました。理科の授業では、子供のもっている素朴な見方や考え方を、科学的な見方や考え方に変容させていく過程を重視します。目の前の現象について自分が考えていることを図や言葉で表し、自分が何をどう考えているのかをはっきりさせる時間をとります。

さらに、子供同士がお互いの考えとその根拠を伝え合うことも大切にしてきました。図や言葉で伝えることで、一層自分の考えがはっきりしてきます。子供たちの考えは、概ね下記のように分かります。



このように考えが分かると、子供の考えはさらに揺さぶられ、ここでも認知的葛藤が生まれます。

問題解決の過程は、子供が問題を見出すことからスタートします。ずれ、揺らぎ、葛藤のある、自然の事物・現象との出会いは、子供が主体的に学習するようになるための鍵だと思います。



今年度も五小・高山小の合同チームで三鷹市ソフトバレーボール大会（2/8）に参加しました。

10月から放課後、日曜日に練習を重ね、三中バレーボール部も練習を応援してくれました。

1月には井の頭住協との交流試合を行い、試合度胸をつけて大会に臨んだ子供たち。当日は緊張しながらも一生懸命声をかけ合い試合をしていました。たくさんの先生、保護者の方が応援に駆けつけて下さり、三鷹の森のチームの試合の時にはコート間の大移動がございました。



子供の感想

- ★とても楽しく出来たし、高山小の人とも交流が深まったので良かったです。
- ★ソフトバレーに初めて参加したけれど、とても楽しかったです！
- ★2年連続とても楽しかったです。また高山小の人たちとも仲良くなったので良かったです。ありがとうございました！
- ★ソフトバレーボールをやって笑顔が絶えない時間ができたと思います。ずっとこのソフトバレーボールのボランティアがつづき、ソフトバレーボールが何年も続けばいいと思います。
- ★ソフトバレーボールをやって、バレーボールがすごく楽しいと思える事ができました。教えていただきありがとうございました。
- ★5年生の時から2年間とても楽しくバレーボールが出来ました。これからも色々な人がバレーボールで楽しい思いが出来たらいいと思います。

保護者の感想

- ★毎回子供たちの元気なプレーを見て、こちらも楽しい気分になります。だんだんチームの結束が強くなるのを感じています。
- ★一生懸命な子供たちの姿に、いつも微笑ましく、どのチームも勝てばいいなと思ってしまいます。
- ★何人かの子供たちに「ソフバ楽しい？」と聞くと、みんな「楽しい！！」と即答していたのがよく分かるぐらい、いつもとても楽しそうに練習をしていました。わが子のチームはその時のテンションに左右されることが多く、失敗する程声も出ず、足も動かずの状態、そんな時浅見さんや賀部さん、教えてくださっているコーチの方々が声をかけて盛り上げて、テンションを上げてくれました。とても良い雰囲気を作ってくれたおかげで点も取ることが出来、声も出るようになっていました。素晴らしいなあと感じました。